

## 表紙について補足説明

安部 茂

表紙の二宮会長撮影写真は、初瀬井路土地改良区が管理をしている新井路又は補水線であるが現在は、ほぼ新井路と呼ぶ。元禄七年（一六九四年）一月二十四日着工、二月二十八日完成。同日疎水式を行っている。この事は県立図書館先哲史料館の府内藩日記があるので、古文書が読めないが大筋を掴みたい。

### 資料説明

- ① 渦河原取入口 空撮
- ② 初瀬井路測量図見出し 明治二十一年
- ③ 水路開鑿実測図 明治二十九年図
- ④ 初瀬観音淵と取水堰 明治二十一年
- ⑤ もち土手平面図 明治二十一年

さて、①空撮ですが山王川の東南方向は、小字貴船ですと貴船自動車佐藤さんが言っていた。貴船神社は祈雨の神として祭神「高麗神」（たかおかみのかみ）中尾に土地改良区事務所に隣接する七所は、六所社として、長い石段を登った所に祀っている。賀来地区の人達が水の恩として尊崇して来ました。現在渦河原取入口は国道二一〇号線白頭山より降りて行きます。当初新井路の取入口は、旧消防署横、茶園畑荒手（放水門）渦河原より七〇〇m上流の龍王淵、川幅は十六間、深さは十八尺、明治二十九年三月二十九日に深淺測

量をしている。私達技術者は測点STAINO（ステーションナンバー）を二十mで取るが、ここでは三十尺を一ステーションとしている。

まとめとして、龍王淵、鶴田（国道二一〇号線）まで

総延長 一、一一五間八分（約二、〇九二m）

高低差 九尺九寸六分五厘（H<sub>II</sub>二・九九m）

勾配 〇・〇〇一四三三<sub>11</sub>／七〇〇である。

④初瀬観音淵と取水堰

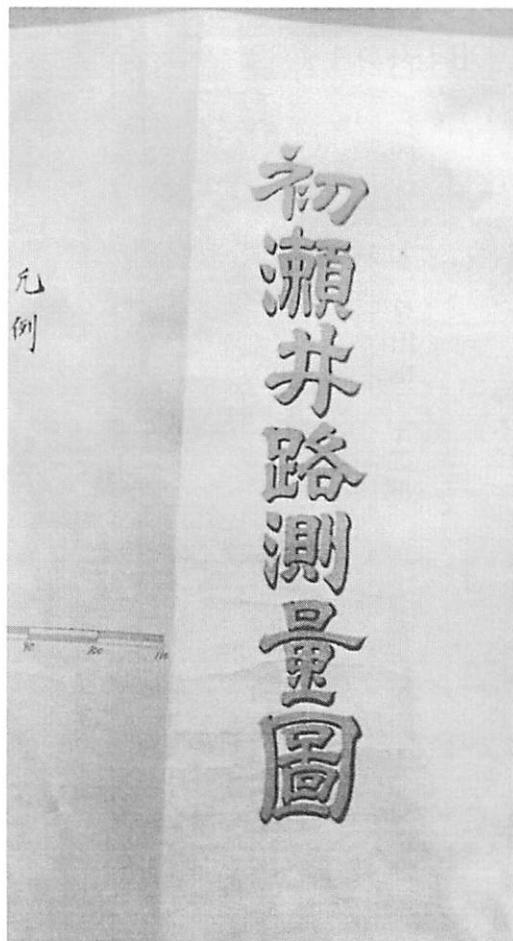
長宝水の未流を（櫛木山神社近くで）受け止める位置です。

⑤もち土手平面図

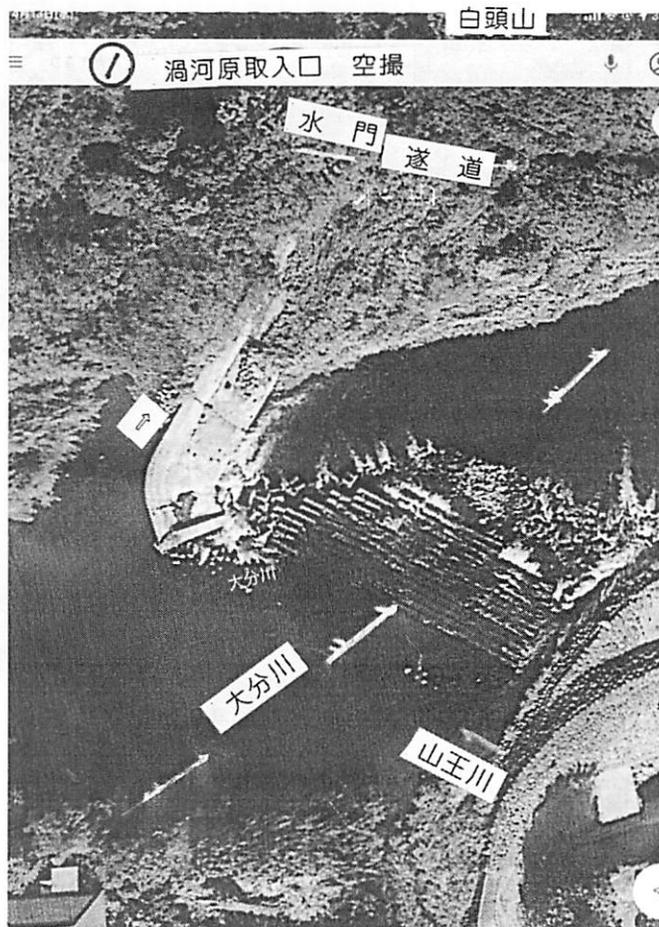
上流側の盛土は少なく、地山もあり下流側は土を多く盛る事により、反力として、上流の土圧に対して抵抗する事が出来、盛土に管理道を造り、人によって転圧が出来る。徳川吉宗公が桜を植樹、桜堤として土手を固めた、そして川岸には柳を植えて河岸の洗掘を防ぎ、保全管理が出来たと言う（NHK 日本のお名前！ 桜と柳より）

いったいどうすれば何回も土手が流されるのでしょうか？

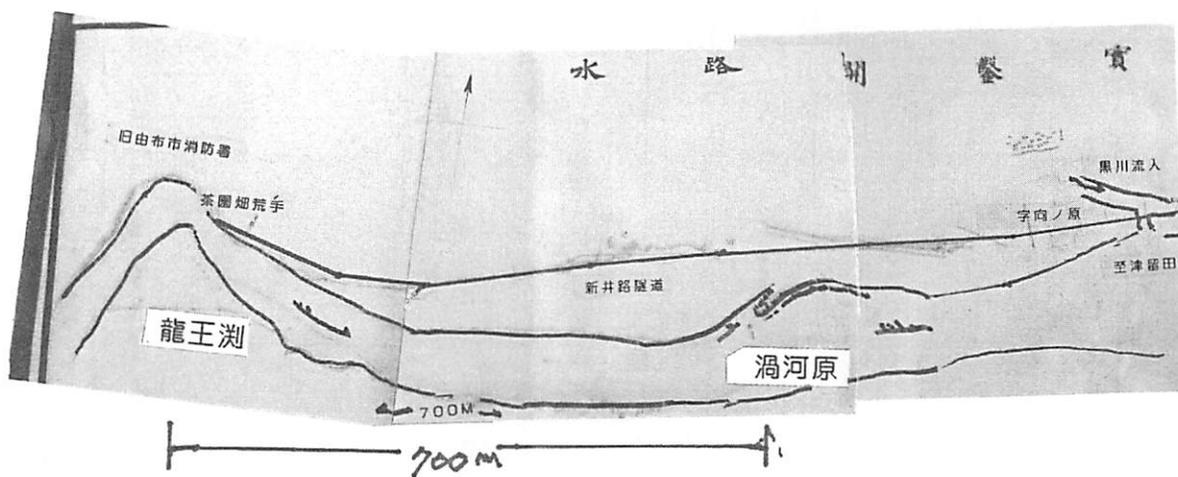
②初瀬井路測量図見出し 明治21年



①渦河原取入口 空撮



③水路開鑿実測図 明治29年





⑤もち土手

